

コード	402070902
記入日	H25.6.6

課コード	115
課名	農林課
課長名	下山 透
担当者	清水 隆久

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 25 年度
------	----------

評価対象事業名称	林道中山大浦線改良事業
----------	-------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	2
基本事業コード	40207	基本事業名称	林業の環境整備	目コード	3
事務事業コード	4020709	事務事業名称	単独事業費（林道改良）	細目コード	1032
関連計画		法令・条例規則等	森林法、長崎県林道事業補助金交付要綱		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 森林所有者		(対象指標1)	51人			
(対象2) 地区住民		(対象指標2)	287人			
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
(全体計画) ・改良延長 L=630m ・幅員 W=4.0m	(平成24年度) ・改良延長 L=141.7m ・幅員 W=4.0m	改良延長	330.3m	52.4%	改良延長÷ 計画改良延長	平成26年度
		改良延長	141.7m	127.2%		平成24年度
		① (達成率分析)	事業計画どおりに進捗している。			
		② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
・本路線は、中山地区と大浦地区を結ぶ林道であり、住民にとって生活道として利用されている重要な道路でもある。幅員が狭く離合をままならないため車両交通の安全が確保できない状況である。このような状況を改善するため道路の改良事業を実施し、安全性の向上を図るものである。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		利便性・安全性の向上	-	-	-	平成26年度
		① (達成率分析)	本路線の整備により、車両交通の安全が確保でき、利便性及び安全性の向上が図られる。			
		② (達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		23年度以前	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① m	630	330.3	188.6	111.4	141.7	120	179.7		
	②									
成果指標	①									
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	18,505	11,103	7,402	3,701	3,701	3,701	3,701		
直接事業費 A	千円	15,005	9,003	6,002	3,001	3,001	3,001	3,001		
人件費 B	千円	3,500	2,100	1,400	700	700	700	700		
内訳	従事職員数	人	0.5	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1		
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円								
	県補助金	千円	5,000	3,000	2,000	1,000	1,000	1,000		
	起債	千円	9,500	5,700	3,800	1,900	1,900	1,900		
	その他	千円								
一般財源	千円	4,005	2,403	1,602	801	801	801	801		

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1 次 評 価	妥当性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ない	理由	林道の安全性及び利便性の向上を図るためには必要である。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる いない	理由	改良済区間においては、車両通行の安全が図られている。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	本事業は計画通りに進んでいるため向上させる余地がない。
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる いない	理由	最小の経費及び人員で最大の効果を得る設計となっている。
・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。		● 代えられる ● 代えられない	理由	最小の費用及び人員で事業を推進しており代えることはできない。	

改善 (ACTION)

1 次 評 価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	特になし。
	今後、課題に向けた改善策	特になし。

2 次 評 価	森林活動への労力及び災害防止、安全性の向上のため計画どおり事業を進めること。
------------------	--

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業 の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。